

「孤独死・孤立死」の実態把握に関するワーキンググループ

「孤独死・孤立死」という「問題」

「問題」としての複合性

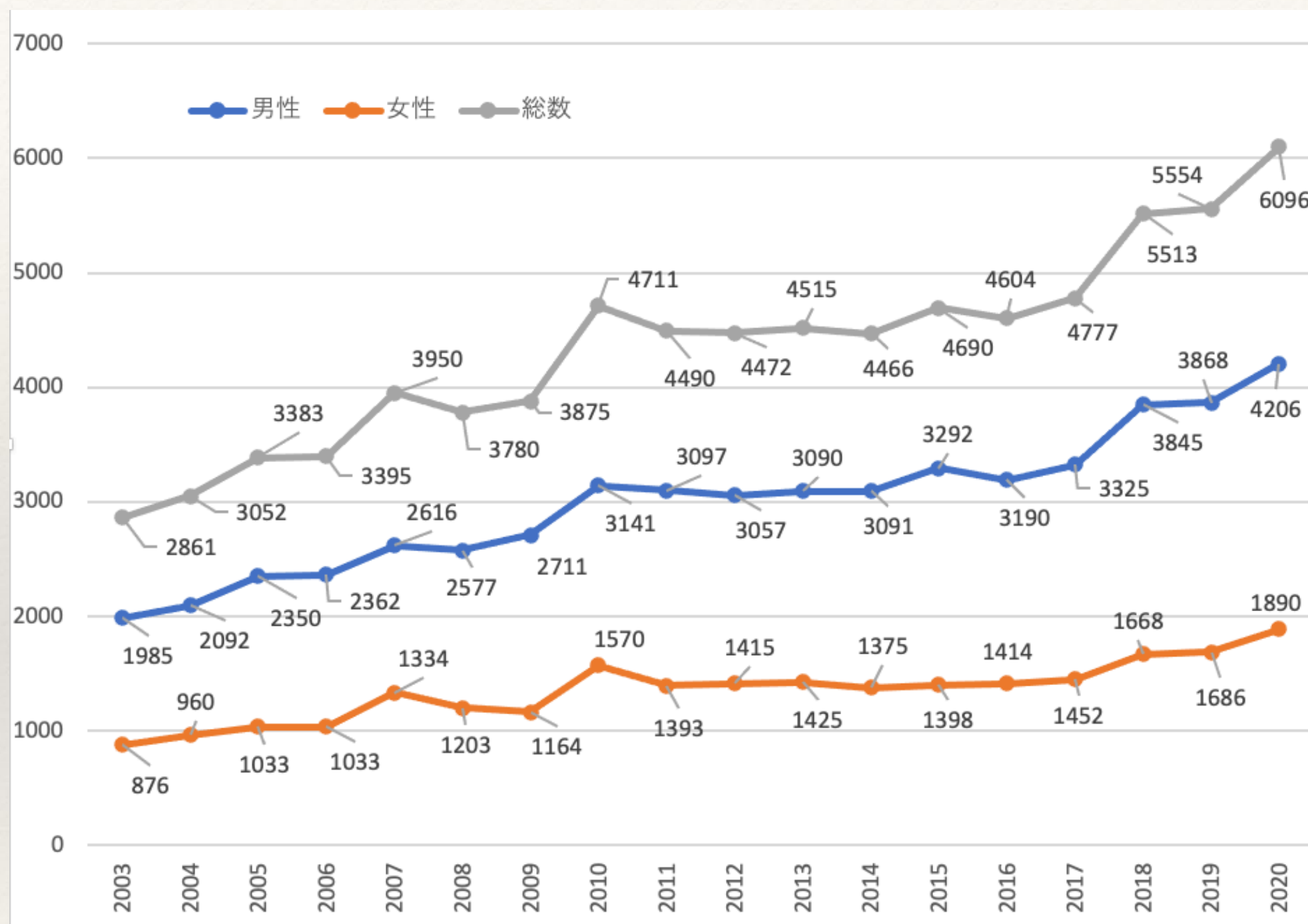
そして、その「定義」における難しさ

2023.9.12.

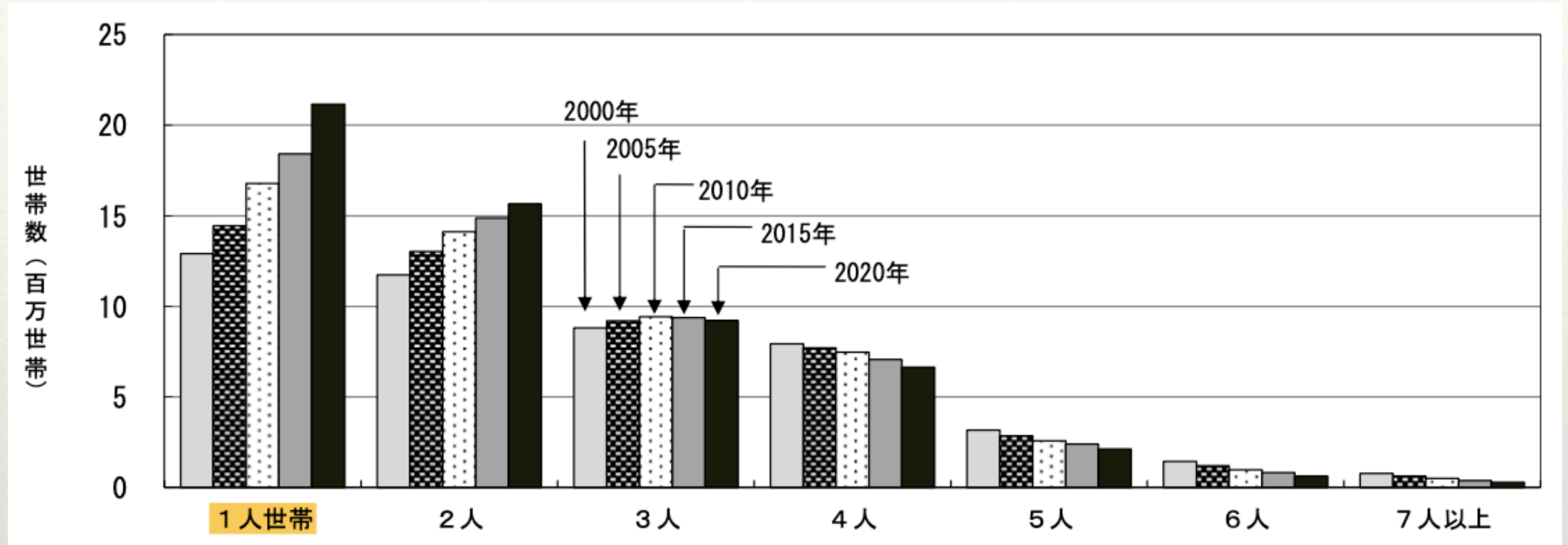
呉 獨立

(九州大学韓国研究センター)

※ 東京監察医務院 資料に基づいた「孤独死」発生推移



※ [参考] 世帯人員別一般世帯数の推移(2000年~2020年)



(総務省統計局[2021]「令和2年国勢調査 人口等基本集計結果 結界の概要」)

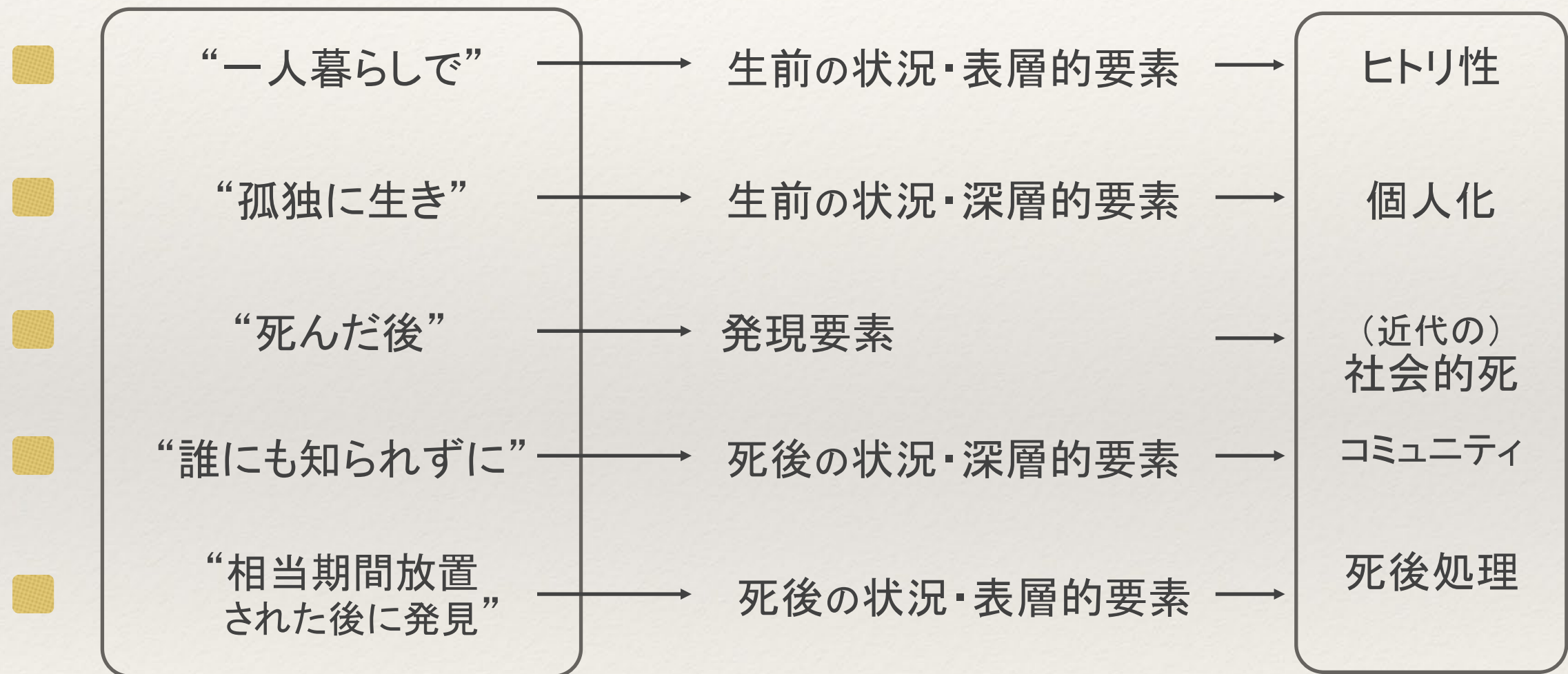
※ [参考] 世帯人員別一般世帯数の推移(2000年~2020年)

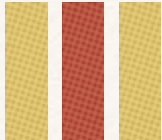
年次		総数	1人世帯	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上
実数 (世帯)	2000年(平成12年)	46,782,383	12,911,318	11,743,432	8,810,437	7,924,827	3,167,227	1,448,960	776,182
	2005年(17年)	49,062,530	14,457,083	13,023,662	9,196,084	7,707,216	2,847,699	1,207,777	623,009
	2010年(22年)	51,842,307	16,784,507	14,125,840	9,421,831	7,460,339	2,571,743	984,751	493,296
	2015年(27年)	53,331,797	18,417,922	14,876,547	9,364,781	7,069,141	2,403,060	811,735	388,611
	2020年(令和2年)	55,704,949	21,151,042	15,656,588	9,229,513	6,629,815	2,126,291	629,499	282,201
増減数 (世帯)	2000年~2005年	2,280,147	1,545,765	1,280,230	385,647	-217,611	-319,528	-241,183	-153,173
	2005年~2010年	2,779,777	2,327,424	1,102,178	225,747	-246,877	-275,956	-223,026	-129,713
	2010年~2015年	1,489,490	1,633,415	750,707	-57,050	-391,198	-168,683	-173,016	-104,685
	2015年~2020年	2,373,152	2,733,120	780,041	-135,268	-439,326	-276,769	-182,236	-106,410
増減率 (%)	2000年~2005年	4.9	12.0	10.9	4.4	-2.7	-10.1	-16.6	-19.7
	2005年~2010年	5.7	16.1	8.5	2.5	-3.2	-9.7	-18.5	-20.8
	2010年~2015年	2.9	9.7	5.3	-0.6	-5.2	-6.6	-17.6	-21.2
	2015年~2020年	4.4	14.8	5.2	-1.4	-6.2	-11.5	-22.5	-27.4
割合 (%)	2000年(平成12年)	100.0	27.6	25.1	18.8	16.9	6.8	3.1	1.7
	2005年(17年)	100.0	29.5	26.5	18.7	15.7	5.8	2.5	1.3
	2010年(22年)	100.0	32.4	27.2	18.2	14.4	5.0	1.9	1.0
	2015年(27年)	100.0	34.5	27.9	17.6	13.3	4.5	1.5	0.7
	2020年(令和2年)	100.0	38.0	28.1	16.6	11.9	3.8	1.1	0.5

(総務省統計局[2021]「令和2年国勢調査 人口等基本集計結果 結界の概要」)

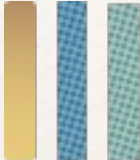
「孤独死」現象における論争要素の多様性及び構成要素

「孤独死」現象を構成する諸要素

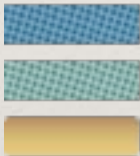




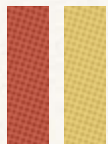
「孤独死」現象における論争要素の多様性 及び構成要素



「孤独死現象」は
近代社会における**社会的なモノ**としての「死」という要素を中心に
近代的**個人化**を深層要素とする、「死」以前の個人と関連する要素と、
近代的「**コミュニティ問題**」を基盤とする、「死」以後の個人の周辺と
関連する要素が包括的に関わっている現象である。



「孤独死」という「社会的死」は
「社会的性」のあり方に関する問いを投げかけるモノであると同時に
そのような「社会的死」を支える
機能的な諸要件に関する問いを含めている。つまり、
「孤独死」は「**関係**」と「**機能**」、いずれにも関わっている現象である。



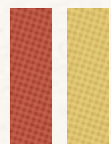
孤独死の定義

出典	内容
大辞林第三版(2006)	だれにもみとられずに、死亡すること、特に、一人暮らしの高齢者が自室内で死亡し、死後しばらくしてから遺体が発見されるような場合についていう。
広辞苑第6版(2008)	看取る人もなく一人きりで死ぬこと。
ウィキペディア	主に一人暮らしの人が誰にも看取られることなく、当人の住居内などで生活中的突発的な疾病などによって死亡することを指す。特に重篤化しても助けを呼べずに亡くなっている状況を表す ⁷² 。
デジタル大辞泉	だれにも気づかれずに一人きりで死ぬこと。独居者が疾病などで助けを求めることなく急死し、しばらくしてから見つかる場合などにいう ⁷³ 。

	内容
内閣府 高齢社会白書 (2010)	誰にも看取られることなく息を引き取り、その後相当期間放置されるような悲惨な「孤立死（孤独死）」
厚生労働省 (2008)	人の尊厳を傷つけるような悲惨な「孤立死」（つまり、社会から「孤立」した結果、死後、長期間放置されるような「孤立死」）
監察医務院 (2010)	孤独死：異状死の内、自宅で死亡した一人暮らしの人
UR 都市機構	・旧定義(2007): 孤独死とは病死又は変死事故の一態様で、死亡時に単身居住している賃借人が、誰にも看取られることなく、賃貸住宅内で死亡した事故をいい、自殺又は他殺を除く。 ・改定定義(2012): 団地内で発生した死亡事故のうち、病死又は変死の一態様で、死亡時に 単身居住している賃借人が、誰にも看取られることなく 賃貸住宅内で死亡し、かつ相当期間（1 週間を超えて）発見されなかった事故（ただし、家族・知人による見守りが日常的になされていたことが明らかな場合、自殺の場合及び他殺の場合は除く）。
さいたま市 (さいたま市役所保健福祉局福祉部福祉総務課) ⁽¹⁾	・孤立死：親族、近隣住民等との交流、住民登録や行政への相談などの行政情報がないため、生きているうちに情報から孤立化し、死亡後、発見までに相当の時間を要した場合の死。 ・孤独死：親族、近隣住民、民生委員、福祉関係などの市職員、ヘルパーなどとの交流があったものの、死亡した時点で孤独であり、死亡後、発見までに時間を要した場合の死。
立川市 (立川市役所福祉保健部高齢福祉課) ⁽¹⁾	・孤独死：死亡の際に一人であった（死亡時の看取りが無い）死亡。 ・孤立死：死亡の際に一人であった事に加え、生前に周囲との十分な交流がなかった死亡。

横浜市 (横浜市孤立予防対策検討委員会) ⁽¹⁾	・孤立化：家族・親族、行政、地域等との関わりが著しく乏しい状況。いざという時に必要な支援やサービスを受けることができない、又は求められない状況を指す。 ・孤立死： 家族・親族、行政、地域等との関わりが著しく乏しい状況下にある方が、相当期間放置されるような死。
北九州市 (保健福祉局地域支援部のちをつなぐネットワーク推進課) ⁽¹⁾	・独居死：一人暮らしの人で、親族や近隣住民、見守り関係者等との交流がある中で、突然の事故・病気などにより一人で亡くなった場合。 ・孤立死：周囲との交流がなく、地域や社会から孤立して必要な支援を受けられない状況の中で、誰にも看取られず一人で亡くなった場合。
大阪市住吉区 ⁽²⁾	・孤立死：地域との日常的な関わりがなく、誰にも看取られずに自宅で死亡し、死後発見された場合。
東京都新宿区 ⁽³⁾	孤独死対策の検討に先立ち、区が孤独死対策を講ずべき対象者を「二週間毎程度に見守る者がいない、独居又は高齢者のみ世帯の高齢者」とする。
愛西市 ⁽⁴⁾	・孤立死：自宅内でひとりで亡くなっている状態を発見されたケース。
岸和田市 ⁽⁵⁾	・孤立死：親族や地域住民等との関わりが薄く、本人に必要な介護・保健・医療サービスが利用できていない社会的に孤立している方が、自宅等で亡くなられた際に、誰にも気づかれることなく遺体があるままとなり、相当日数を経過してから発見されるケースのこと。 ・孤独死：主に一人暮らしの方が誰にも看取られることなく、自宅等で突発的な疾病等によって、自分で助けを呼べずに亡くなられるケースのこと。親族や地域住民等との関わりのある方や、適切な介護・保健・医療サービスを利用している方であっても、孤独死となる可能性がある。
東海市 ⁽⁶⁾	ひとり暮らしの人が誰にも看取られることなく、生活中的突発的な疾病等により死亡する「孤独死」や、社会的孤立のために死後誰にも気付かれずに遺体があるままになる「孤立死」
東京都世田谷区 (世田谷区地域福祉部高齢福祉課) ⁽⁷⁾	・孤立死：高齢者が誰にも看取られずに自宅で死亡し、死後数日を経過し発見されたもので、区及びあんしんすこやかセンターにて把握できたもの
和歌山県 (孤立死防止検討委員会) ⁽⁸⁾	高齢者の孤立死とは、一人暮らしの高齢者が、経済的な困窮、慢性疾患などに罹患、または引きこもり (Self Neglect) などの状態で社会的にも地域からも孤立した状態で死亡した場合、また劣悪な環境で死亡した場合、あるいは家族と同居しているが看取られずに死亡後発見された場合などという。

出典：⁽¹⁾野村総合研究所(2013)、⁽²⁾関西総合研究所(2014)
⁽³⁾厚生労働省(2007a)、⁽⁴⁾厚生労働省(2008a)
⁽⁵⁾<https://www.city.kishiwada.osaka.jp/soshiki/31/koritsushi.html> (2019.5.17 アクセス)
⁽⁶⁾<http://www.city.tokai.aichi.jp/19187.htm> (2019.5.17 アクセス)
⁽⁷⁾澁川(2014)、⁽⁸⁾古橋・金川・中尾(2011)

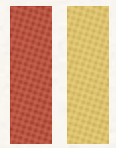


孤独死の定義

	内 容
原田（1995）	65 歳以上の老人の死亡状況のうち、看取られない状態の死
額田（1999）	孤独死：①ひとり暮らしの被災者が仮設住宅内で誰にも看取られずに死亡、事後に警察の検死の対象となる異常死体。②低所得で、慢性疾患に罹病していて、完全に社会的に孤立した人間が、劣悪な住居もしくは周辺領域で、病死および自死に至った場合。 独居死：一人暮らしであっても肉親や社会との交流のある人が、心臓発作などによって誰にも看取られず突然死すること。
厚生労働問題研究会（2004）	社会的に孤立し十分なケアがないまま看取る人が無く死亡
高橋・塩崎・堀田（2005）	自宅内で誰にも看取られずに亡くなった自死を含む死
大澤（2006）	ひとり暮らしや家族がいても不在時に誰にも看取られず死を迎えた場合
岩田（2007）	すでに社会関係が絶たれていて、その結果誰も死に気づかず、死後かなりたってから、第三者に発見された場合
黒岩（2007）	誰にも看取られず死亡し、死後数日（から数ヶ月）経って発見される死
高尾（2008）	日常的に社会的つながりを絶っており、日頃から行政などのフォーマルおよび親族や近隣などのインフォーマルなケアを受けることなく孤立状態であり、誰にも看取られず居宅で死に至り、死後しばらく経ってあら発見される状態（自殺は含めず）
松宮・新美・鷺野（2008）	孤独死・孤立死：社会的に孤立している一人暮らしの状況におかれた人が、自宅で誰にも看取られずに亡くなること
橋爪（2008）	年齢は問わず、ひとり暮らし世帯であるがゆえに誰にも看取られずに死に至ったもの。また、ひとり暮らし世帯もしくはひとり暮らし世帯に限らず、所得保障、医療ならびに介護等生きていく上での必要なサービスにアクセスできない、もしくは敢えてアクセスしないといった原因が基本にあった上で死に至るとき
田中・高橋・上野（2009a）	経済的・身体的により不利な状況にある被災者が、社会的接点を次第に減少させるなか、大規模・高層といった居住環境におかれることによって周囲の人びとと没交渉に陥るだけでなく、その存在さえも認識されない境遇へと導かれ、社会的孤立の果てに死に至ること
今野・大塚（2016）	孤立死：死後に発見される日数にかかわらず、死ぬ瞬間に誰も立ち会わずに亡くなること
高尾（2017）	社会的に孤立状態にあつて誰にも看取られずに亡くなった場合

上田・上原(他) (2010)	社会との交流が少なく孤立し、誰にも看取られず自宅で、死し、死後発見される場合
田中・高橋・上野 (2010)	未婚の中高年齢層など孤立化のリスクを抱えた被災者が、遠隔地や大規模団地へ移転したあと、新たなコミュニティでの人的なつながりを形成できないまま単独で死亡し、数日以上を経て発見されること
斎藤（2010）	孤独死：従来から周囲との交流がなく、地域からも社会的に孤立している状況のなかで、誰にも看取られずに一人で亡くなる場合 独居死：普段は家族や近隣住民、見守り関係者等との交流があるなかで、突然の事故や疾病により一人で亡くなる場合
ニッセイ基礎研究所（2011）	孤立死：自宅で誰にも看取られずに亡くなった65才以上高齢者で、発見までに4日以上経過したケース
鷺野・松宮（2011）	孤独死・孤立死：自宅で一人誰にも看取られないまま亡くなり、誰にも気づかれずに数日が過ぎた後に発見される
舛田・田高・臺有（他）（2011）	孤立死：地域から孤立し、誰にも看取られずに死亡したり、死亡後何日も周囲から気づかれずに放置されたりする高齢者の孤立死
玉置（2012）	孤独死(solitary death): 別居家族や近隣などと疎遠になりがちな単身者が、持病や急病などによって死亡した後、数日以上経ってから居宅内などで発見された事例 孤立死(isolated death): 単身もしくは2名以上同居の世帯などが、失業、離別、疾病、障がい、貧困などの複合的要因によって孤立無援に陥り、衰弱死や自死もしくは心中などの後、数日以上経ってから居宅内などで発見された事例
大坂府民生委員児童委員協議会連合会地域福祉部会（2013）	孤立・孤独死とは主に一人暮らしの人が誰にも看取られる事無く、当人の住居内等で生活中的突発的な疾病等によって死亡すること。また社会的に孤立してしまった結果、住居内で死後しばらく周囲の社会に気が付かれず放置されていた状況をいう
入井・岩橋・青木（2013）	独居死：死因不明で法医学解剖の対象となった例のうち、独居者が自宅において死亡状態で発見された場合
久禮・平峯（2013）	社会的に孤立し、十分なケアを受けられない状態の中での死
中森（2013）	誰にも看取られずに死を迎え、死後しばらく経ってから発見されること（最大公約数的な定義）
反町（2014）	自宅で死亡した単身生活者でありかつ死体検案時点で死後1週間以上経過していると監察医が判断した
山崎・羽田・水野（他）（2015）	「看取られずに死亡した死」「死亡後発見されるまでに長期間経過している死」
日本災害看護学会（2016） ⁷⁵	従来から周囲との交流がなく、地域から(社会的に)孤立をしている状況の中で、誰にも看取られず一人でなくなった場合
田中・森實（2016）	高齢者が医療、看護、介護が必要な状態になっても、住み慣れた地域や住まいで生活を送り続け、病状の悪化、変化の対応の遅れなどによって誰にも看取られることなく息を引き取ること
小曾根（2016）	自宅で発見された異常死のうち独居者または独居にきわめて近い状態(2世帯住宅、同一敷地内離れ)の方の病死自然死、および自殺死

（呉獨立[2021]『「孤独死現象」の」社会学』28-34頁）



孤独死の定義

孤独死の定義をめぐる様々な論争要素

- 死亡場所: 自宅内での死に限定するのか？
- 世帯類型: 一人暮らしの死に限定するのか？
- 自殺の扱い方: 自殺を含めるのか？
- 生前の状況: 社会的関係の有無などの生前の状況を考慮するのか？
- 看取りの有無: 看取りがない死に限定するのか？
- 年齢基準: 高齢者の死に限定するのか？
- 死後経過時間: 死後経過時間に関する具体的な基準設定は可能であるのか？



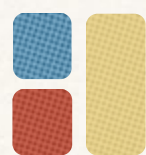
日本の孤独死 現象と言説

孤独死はどのように語られてきたのか？

「孤独死現象」に関する言説の類型

	孤独（孤立）の原因	孤独（孤立）の帰結（死）
当事者	個人化言説	コミュニティ言説 （予防的）
周辺	福祉・制度に関わる言説	コミュニティ言説 （死後处理的）

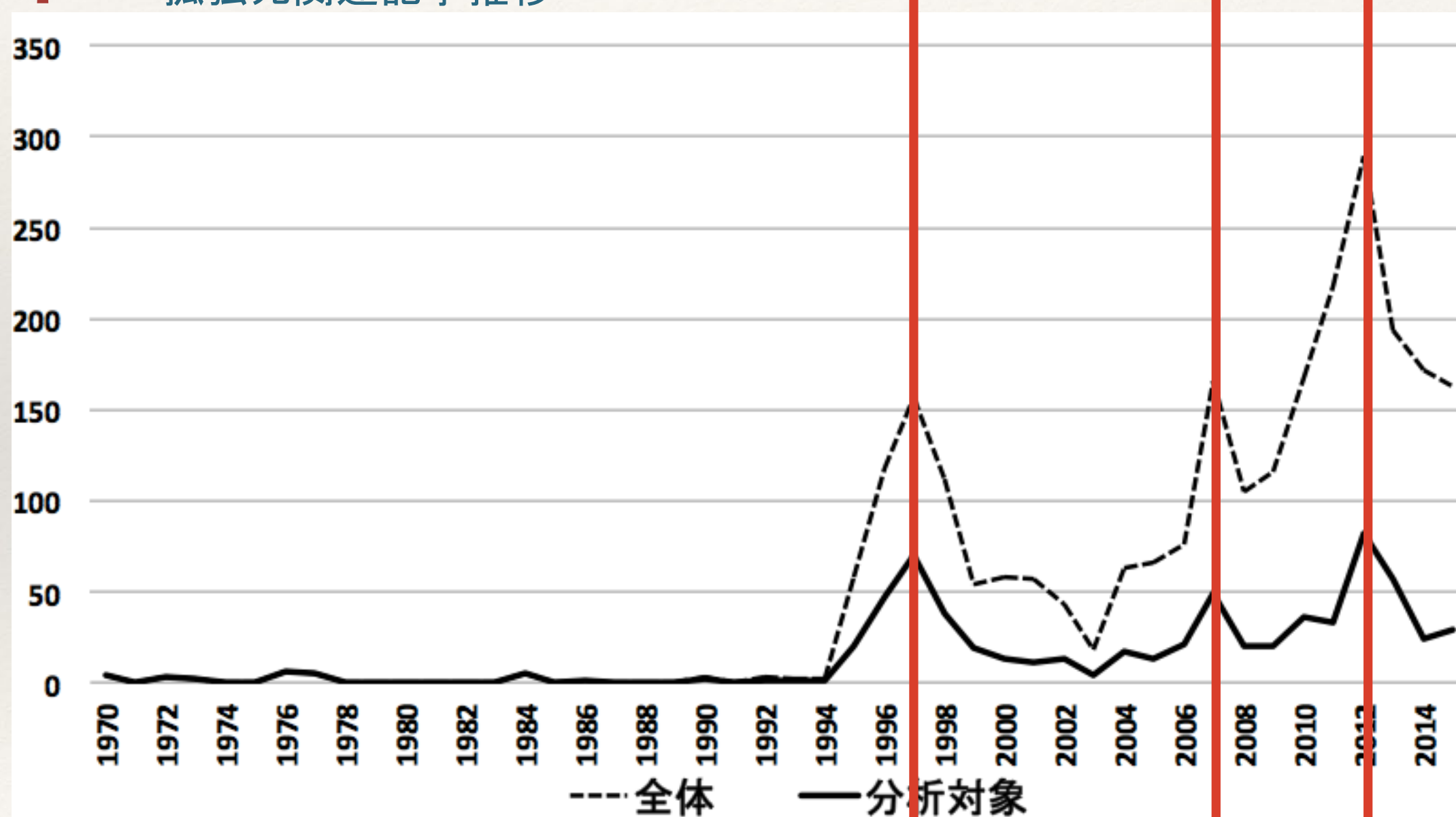
（呉獨立[2021]『「孤独死現象」の社会学』106頁）



日本の孤独死 現象と言説

孤独死はどのように語られてきたのか？

* 朝日新聞の 孤独死関連記事推移



(呉獨立[2021]『「孤独死現象」の社会学』114頁)

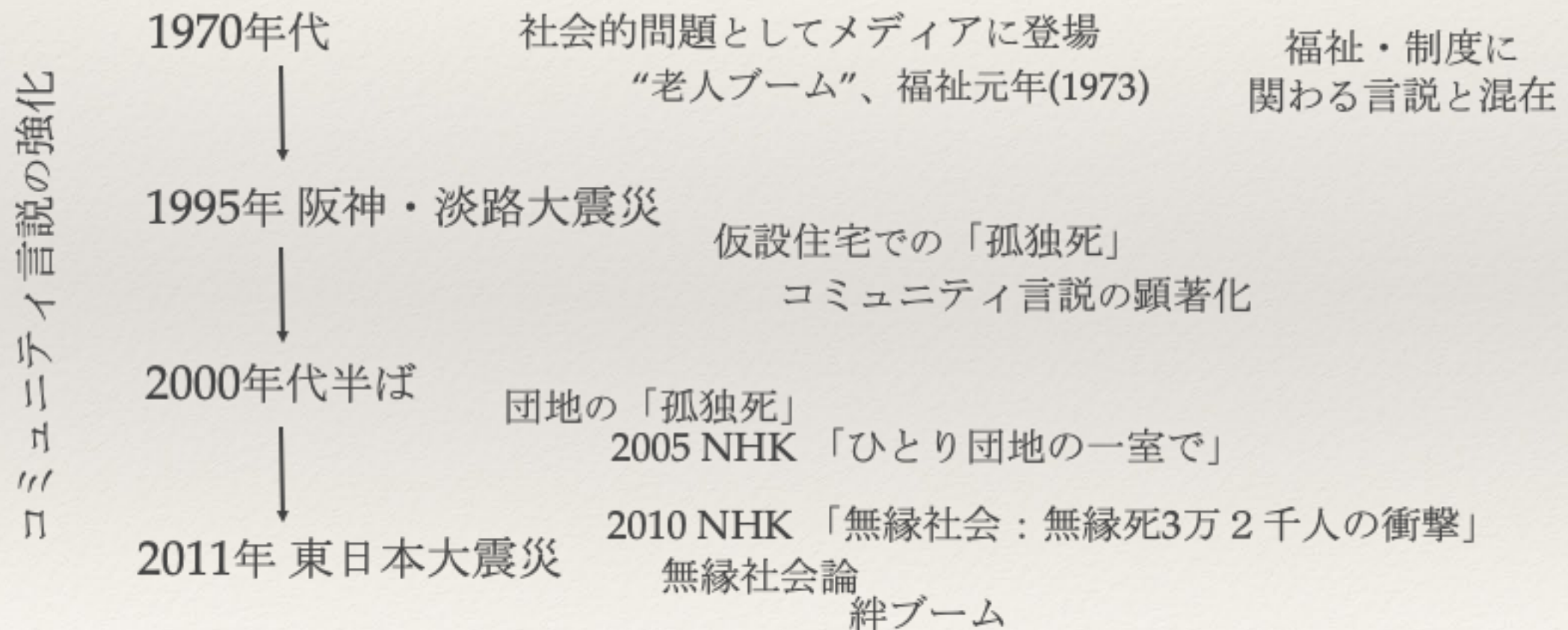


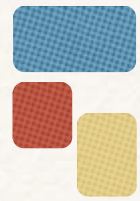
日本の孤独死 現象と言説

孤独死はどのように語られてきたのか？

日本の「孤独死」言説展開の様相

「コミュニティ言説」中心の言説展開





孤独死 関連政策の方向性

政策的関心対象としての「孤独死」

1) 「孤立死防止推進事業」実施以前

独居高齢者中心の政策

高齢者の「孤立感」問題中心

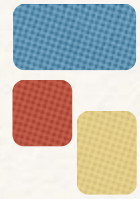
老人福祉電話センター
老人福祉相談員制度

コミュニティ対策

ふれあい・いきいきサロン



高齢者の「孤立感」を中心とする「関係(つながり)」の問題
阪神・淡路大震災以後、コミュニティ関連事業活発



孤独死 関連政策の方向性

政策的関心対象としての「孤独死」

2)「孤立死防止推進事業」実施

孤立死防止推進事業(2007. 厚生労働省): 孤立死ゼロプロジェクト

孤独死関連実態把握

孤独死関連啓蒙活動

安否確認システム/見守り活動ネットワーク

つながり形成の場づくり



明示的な「コミュニティづくり」中心の 政策



孤独死 関連政策の方向性

政策的関心対象としての「孤独死」

3) 「孤立死防止推進事業」以降

高齢社会白書などに「孤独死」持続的に言及
「コミュニティ」「地域福祉」中心の政策方向深化

安心生活創造事業(2009)

地域支え合い体制づくり事業(2011)

孤立死防止政策取組279事例紹介(2013. 厚生労働省)

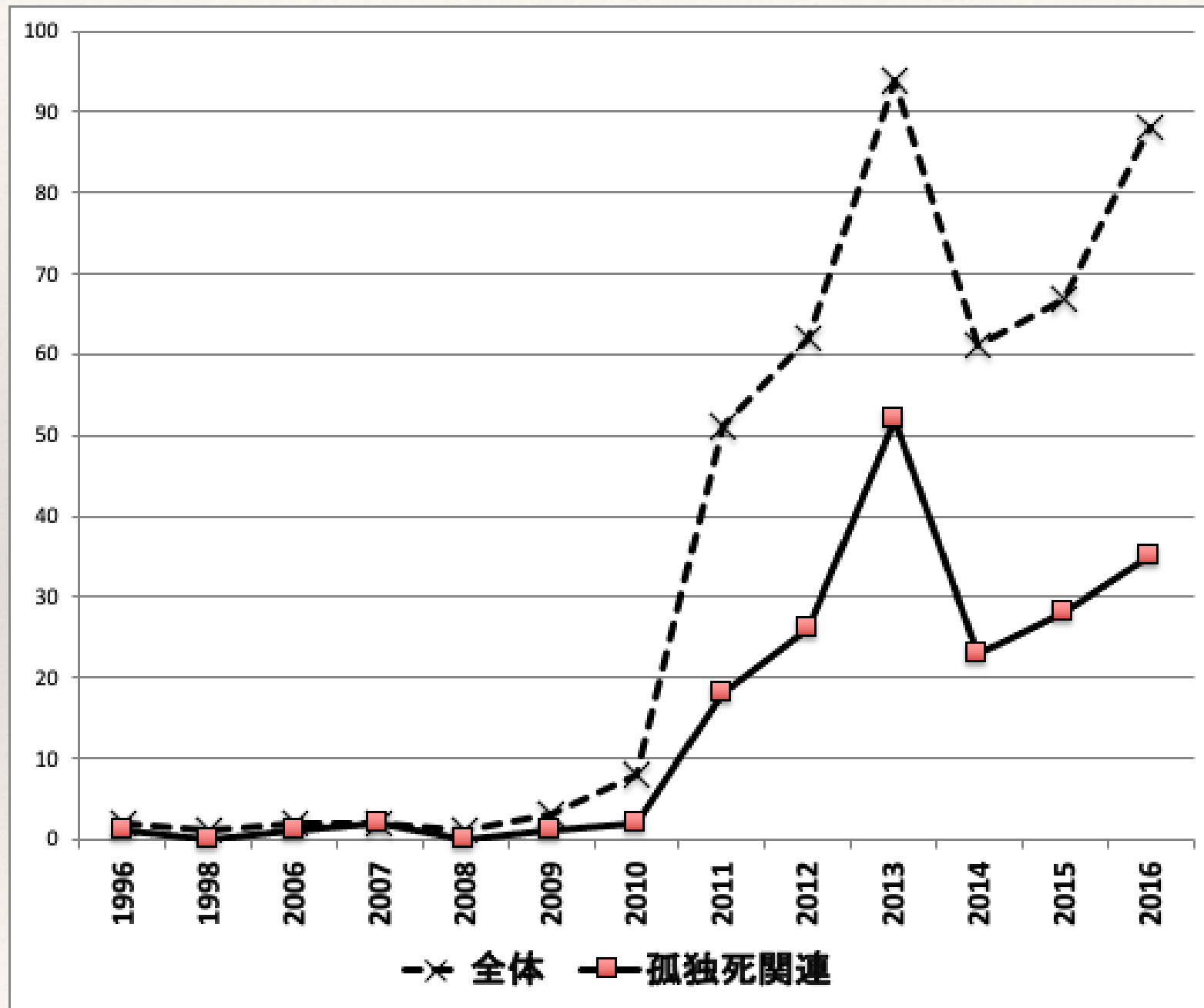


コミュニティ 志向政策の持続



(参考) 韓国の孤独死言説との比較

※韓国主要新聞の「孤独死」関連記事の推移



11種の日刊紙
孤独死関連記事

442件の記事中
分析対象189件

(呉獨立[2021]『「孤独死現象」の社会学』142頁)



(参考) 韓国の孤独死言説との比較

福祉・制度
に関わる言説

>

コミュニティ
言説

韓国で「孤独死」が語られるときには、

- 「つながり」と関連するキーワードが頻繁に使用されているものの「コミュニティ」に関する表現は少ない。
- 「家族構造変化」など 社会構造的変化の側面を頻繁に言及しながら孤独死現象を社会問題として扱っている。
- 「孤独死」が言及されるとき、「貧困」関連キーワードが高い割合で共に登場する。
- 「制度/政策的問題」として「国家/政府」に対する責任及び対処を求めるキーワードを伴う傾向が強い。
- 「高齢者」と関連するキーワードと共に語られる場合が多い。
- 「孤独死」が語られるとき、
「自殺」に関するキーワードは無視できない要素



(参考)

■ 「孤独死予防及び管理に関する法律」

2020年3月31日制定・2021年4月1日施行

第2条(定義)

「孤独死」とは、家族、親戚など①周辺の人々から断絶したまま一人で暮らす人が、②自殺・病死などにより一人で死を迎え、③その遺体が一定時間の経過後に発見される死をいう。

- 一人暮らしではなくても社会的孤立状態で死亡した場合、それも孤独死に含める法律改正案が国会の法制司法委員会に係留中(2023.2.24、常任委員会通過)

- 孤独死実態調査設計研究(韓国保健社会研究院、2021)



(参考)

■ 「孤独死実態調査」実施

「2022年孤独死実態調査結果」発表(2022年12月14日)

調査内容

最近5年間(2017～2021年)の韓国における孤独死発生現況

調査方式

警察庁の刑事司法情報(2017～2021年、約24万件)を分析し、法律上の孤独死定義に符合する事例を抽出

■ 「第1次孤独死予防基本計画(2023～2027)」

2023年5月17日発表

ありがとうございます。